（一）　第561号　昭和27年9月25日 第三種郵便物認可　THE MIIKE　（毎週日曜発行）　昭和34年（1959）2月1日（日）

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番
編集兼発行人　園　攻

撤回を期して闘う
企業整備反対闘争方針きまる

三鉱連企業整備反対闘争中闘委員会は、三井鉱山の不当な「企業整備」をハネ返す闘いの方針を検討した結果、三鉱連の独走も辞せざる決意であるが、あくまで炭労の指令指示をまもつて、炭労の統一闘争の中で会社提案の撤回を期して闘う態度をきめ炭労にその報告をおこなつた。

炭労では直ちに中闘連絡会議をひらいて闘う方針を検討、炭労の統一闘争を組織し断固闘いぬく方針をあきらかにし「企業整備反対闘争指令」をだした。

三鉱連中闘は一月二十八日、オルグとして各山に帰山し闘争方針の説明をすることになり、三池ではオルグとして帰山した宮川、蒲池両中闘をむかえて一月三十一日中央委員会をひらいて、闘争方針の説明をうけ闘う決意をかためた。

独走も辞せぬ決意で

三鉱連中闘委員会は一月十九日、二十日の両日にわたつて提示、説明された独善的な三井鉱山の「企業整備案」をハネ返す闘いの方針を検討した。中闘委員会は日経連前田事務が「この案を組合がのまねば断固としてたたくばかりだ……」といつており、業界ではこの一方的で不当きわまる案ですら「一手ぬるい」という批判があることからも、会社側の異常な決意を知ることができる。この闘いの性格を三井鉱山が企業競争に耐えつつ社内蓄積を増大するための転機をつくろうとすることと、いままで労資間でむすんでいた協約諸協定慣行約束事項を一方的にふみにじろうとする攻撃にたいする対決と理解して、闘いをすすめることをあきらかにした。

さらに最も強いすすんだ労働組合をたたくことによつて全労働組合を骨ぬきにしようとするための攻撃である「企業整備案」の撤回を期して闘う闘争指標として

1、労働条件の切り下げ反対（既得権防衛）
2、職場、居住区の民主化防衛（職制支配の排除）
3、完全雇用の確保、首切り反対
4、懸案事項の要求獲得（昇給、旅費規程、出納積立金の改正、美唄代替鉱区設定）

以上の四つをかかげ、三鉱連の独走をも決意して闘わねばならないが、あくまでも炭労の指令指示を守つて、炭労の統一闘争の中で解決する。

大幅以上のような闘争方針をきめ一月二十六日炭労にたいして正式報告をおこなつた。

炭労の統一闘争で反撃

炭労ではただちに中闘連絡会議をひらいて、三鉱連の闘争方針を確認し、炭労の統一闘争で闘いぬくことをきめ

1、企業整備反対闘争推進のため第二十一回炭労大会で集約した三権のうち、交渉権を三鉱連、三社連に委譲する。
2、団体交渉には炭労中央執行委員の参加を会社にみとめさせ、岡、佐々木、石塚各執行委員を担当執行委員とする。
3、三鉱連、三社連は傘下全支部にオルグを派遣して、企業整備案の説明と闘争体制確立をはかり、二月五日以降いかなる戦術にも対応できるようにする。
4、労職の緊密な提携、交流を行つて闘争態勢強化とともに共闘を組織することに努力する。
5、三鉱連、三社連をのぞく炭労傘下全支部は、闘争の本質と統一闘争の意義をすみやかに組合員に理解、徹底させ、統一闘争の諸行動（実力行使を含む）が実施できる闘争体制を確立する概要以上のような企業闘争反対指令を発令した。

こうしてあきらかにされた闘争方針にもとづいて、宮川、蒲池両中闘がオルグとして帰山、三池では三十一日中央委員会がひらかれ、中央における経過の報告と、闘争方針の説明をうけ、満場一致これを確認した。

なお、三鉱連企反中闘委員会からだされた、パンフレット組合員必読「合理化案の全貌と闘うわれわれの態度」が全組合員に配布され一照、闘争体制確立の方全を期したいる。

中闘の報告ききき、闘争の決意を固めた中央委員会

闘争日誌

1・25　政治研究集会ー市民館で「私たちと市政」をテキストに研究をおこなつた。
中闘委員会決定事項ー闘争方針成文化。
26　労働会館で大地評労農提携学習会。
炭労に三鉱連の闘争方針を正式報告
27　春闘討論集会ー労働会館で総評派遣武蔵野大学岡崎三郎教授、石川総評常幹をむかえて、春闘について研究討論をおこなつた。約250名が参加三池労組からは行動隊支隊長以上の60名が参加。
西鉱連交流情宣（宮浦支部）
炭労は三鉱連の報告に基き中闘連絡会議で態度決定。
28　労働会館で大地評労農提携学習会
瀬高町・町長、町議選挙ー三池労組推せん候補木庭英治氏当選。
西鉱連交流情宣（三川支部）
29　中闘帰山ー宮川、蒲池両中闘が企業整備反対闘争方針説明のため帰山
賃金第3回団交ー第2回団交での会社回答に反論、金額提示はなかつた
炭労原委員長来組
西鉱連交流情宣（四山、本所支部）
30　中央執行委員会ー中闘から企業整備反対闘争方針の説明をうけた。
西鉱連交流情宣（港務、製作支部）
31　中央委員会　中闘から企業整備反対闘争方針の説明をうけた。

前進
視野を広めて！

去る三十一日の中央委員会において、三鉱連の企反中闘の帰山をまつて中央における経過と中闘ならびに炭労の基本的態度の報告がなされ、中央委員会はこれを満場一致確認し、さらに闘う決意を新たにした。

今回の企反闘争の推進については、既に何回となくくりかえしてその重要性と闘争態勢の確立を訴えつづけてきた。もちろん、これは三鉱労組自体の判断のうえにたつた、主として内部態勢の確立にあつたことはいうまでもない。

しかし、三鉱連ならびに炭労の基本的な考え方があきらかになつた今日においては、ただ単に三池の内部態勢の確立だけのせまい視野でこの問題をながめることは、非常に危険性があることを認識しなければならない。それは中央の情勢分析においてもあきらかのように、われわれ三井に出された、いわゆる「会社再建案」なるものは、全労働者にたいする挑戦と弾圧を意味していることを認識し、問題はその内容の把握と理解をふかめ、これを全労働者の統一闘争に発展させるためにはどうしなければならないかということについて、われわれ自身が十分理解をふかめる必要がある。

即ち炭労指令第三十四号の中でいわれている「協定の破棄はもちろんのこと大量首切り、坑口の休廃止、労働条件の切下げなどの非常手段で攻撃して対決を求めてくるであろう」と指摘した通り、かかる攻撃をかけられた以上は、階級的視野に立つて全体的闘争を組織し、いかなる大規模な攻撃に対しても断固としてこれをはね返すという考えに立たなければならない。

したがつて、われわれは独占資本がもつとも前進的であるといわれている三鉱連に対し、集中攻撃を浴びせてくるという立場に立つ限り、これは炭労の組織分裂と破壊をねらつていることがうかがえるからである。ひいては総評の弱体化もあわせ考えていることも認識しなければならない。

このことを念頭において、われわれはこんどいかに他組織や中小企業、あるいは農民と共闘を組むかということに一人一人が自覚して、組織的にも個人的にもこの闘いの意義と重要性を訴えて、つながりを深く結びつつ前進して行かなければならない。

そのためにまず各人が考えなければならないことは、統一行動ということをつねに念頭において行動をおこすことである。

具体的には職場にあつても地域にあつてもまず統一行動、意思統一を十分行つて、全員がおなじ歩調で前進できる態勢のなかであらゆる闘いを組織し、これを闘いぬいて行くことをもつとも重点に考えなければならない。敵の挑発にのる危険性を十分に警戒しつつ、三鉱連全六山の統一行動から炭労の統一行動へ発展させて行かなければならない宿命をもつている本闘争を十分理解し、一人よがりや他をヒボウする態度は十分つつしんで、視野を広くもつてこの闘争の真の意義を確認しなければならない。

中央委員会で挨拶する炭労原委員長

総力を挙げて対決
中央委員会で原委員長挨拶
屋台骨的な役割

春闘態勢強化のため九州各ヤマをオルグしている炭労原委員長は一月二十九日来牟、ただちに闘争態勢の強化にあたつたが、三十一日午前九時から労働会館でひらかれた中央委員会で、つぎのように挨拶、激励をおこなつた。

六十三日ストいらい二十万炭労の組織は営々として敵の攻撃に抵抗しながら、今日のように育つたのです。その屋台骨的役割りを果したのは、何といつても三井の労働者であり、労働組合です。就中、三池が階級的に組織闘争の前衛として闘つてこられたことについて心から敬意を表するしだいです。賃金の二千円要求について昨年の十、十一月討論集会をひらき、全国を回りました。このとき、いろんな意見がでましたが、このなかに極端な意見の出たことも、われわれは認識する必要があると思います。それは、ことしは賃金の要求をやめて戦力を蓄積し組織整備をしたらどうか。また二千円というとそうもない要求をやるから闘いは長引くのだ、額を今年は少くしたら早期に解決するのではないか、あるいは炭労はいつも総評の支柱といわれおだてられてストをやつている、ことしは後陣で闘つたらどうか……こういう極端な意見も出されています。私はこの意見を悪意には解釈しません二年ぐらい前オルグとして回つたときは、云いつ放し聞きつぱなしでお互いに議論して前進するという素朴な意見は出ませんでした。しかしこんな意見が出るというのは、そのことで幹部に向つて物をいうことになつたのは意義があると思います。だがもつと親切な具体的な教宣活動、組織活動が必要であることを痛感しました。

本年は賃闘あるいは最賃闘争など経済闘争を中心にするが、権利闘争あるいは平和闘争という指標に向つて日本の全労働者が結集して闘おうということになり、そのためその戦術内容には違いがあつても一斉に立上る事として二月二十五日をスタート、三月十日を目途にしてそれぞれの組合がもてる総べての力をここで発揮する、そして闘いを一そう巾の広い鋭さをますような闘いにして行くようきめております。

もちろん他の産業の労働者がある程度の賃上げに成功してもわれわれの闘いは即座に三月十日を目途に、短期間で解決することはまず百%不可能でしよう。だがいずれにしてもすべての労働者が闘いをはじめそのなかで成果をおさめるまで頑張らなければならないのです。資本家はスキがあれば炭労の組織を破壊しようとねらつています。これは期末手当闘争でまざまざとみせつけられたと思います。したがつてわれわれの闘いはつねにある意味では最大の犠牲を覚悟し、ある意味では物凄くながい闘いを覚悟してその準備をする必要があります。われわれに一部のスキでもあると、そのなかにとびこんできて、かれらが攻撃をしかける、それが全体のヒビになる危険性がある。これをいつもかんがえ、われわれの内部で議論し意思統一をしてつぎの闘いに備える態度が必要であります。われわれも大いに皆さんの意見をきき、あるいは参考になることを将来の闘いのために炭労に文句をいつてもらいたいのです。それが将来の指導のうえに重大なプラスになることは間違いないのです。

さいごに賃闘と合理化闘争の組み方ですが、賃闘あるいは権利の闘い、平和闘争という総評を中心とする春闘は、二月二十五日から火ぶたがきられるが、いかなる状態に発展しようとも原則として賃闘の方針はかわりません。あるときは賃闘以前に合理化のために実力行使をします。これが賃闘にすべりこむ、そのときは闘いの指標は二つになります。

つぎに全資本に合理化がきた場合は賃闘と春闘は同時解決になるでしよう。これがバラバラになつたときは原則としては全体の統一闘争ではねかえすが、いまの炭労の実態からみて、直ちに同一歩調の戦術が行使できない面もあります要は直接攻撃をうけている三鉱連が闘う決意をかためることが先決で、炭労全体としては、その戦術行使に時期のずれ、規模のちがいはありうることを十分理解していただきたいが、賃闘が終了しても企業整備闘争がのこることは想像されるので、その場合は全体の闘いとして闘うが、直接攻撃をうけている支部が中心になつて闘いを組み、それを炭労がバックアップをして闘いをすすめて行くことにしています。さいごまで頑張りましよう。

皆がバッヂを
日中国交回復運動

総評では「日中国交回復促進バッヂ」の普及運動をおしすすめている。

これは、日中関係の危機を打開し国交回復実現のための具体的な運動として、バッヂ普及の運動を推進することにしたもので、炭労に六万個が割当てられ、三池には三千五百個がきている。

本部では約五人に一個の割合いで各支部に配布している。

職場、地域でもこの趣旨を十分理解されて、バッヂを胸につけてこの運動に協力されるようよびかけている。

会社回答に反論
賃金団交・次回は二月中旬

賃金団交は第三回をむかえ一月二十九日午後一時から各社一斉にひらかれた。

前回（一月二十四日）のゼロ回答にたいし組合は激しく反論、(1)石炭界の不況について(2)炭鉱労働者の生活について組合の見解を述べ次回団交に前進したかんがえを出すよう要求した。

なお、次の団交は来月中旬以降もてるようにと要請してこの日の交渉を打切つた。